

ディフューザー効果を高める 本気のバーニス用マフラー



ガレージ・トータル代表
小里 誠さん

形に捕らわれないチューニングを理想とするチューナーであり、ハイレベルな排気系パーツの製作を得意とする作り手でもある。

クルマ好きが集まると「自分の理想のクルマとは」そんな話題で盛り上がってしまうなんてことはよくある。本誌編集長である山田は、ことさらそんな話題を好む。そんな山田がある時、取材時に意気投合したガレージ・トータルの小里さんと飲みに行く機会があったのだそうだ。同世代の、しかもクルマ好きな2人だから、その場の話題もクルマの話。排気系パーツの製作を得意とする小里さんは自らの理想の排気系パーツのことを、そして山田は、自身が考える理想のマフラーについて、長く、熱く語り合ったのだとか。

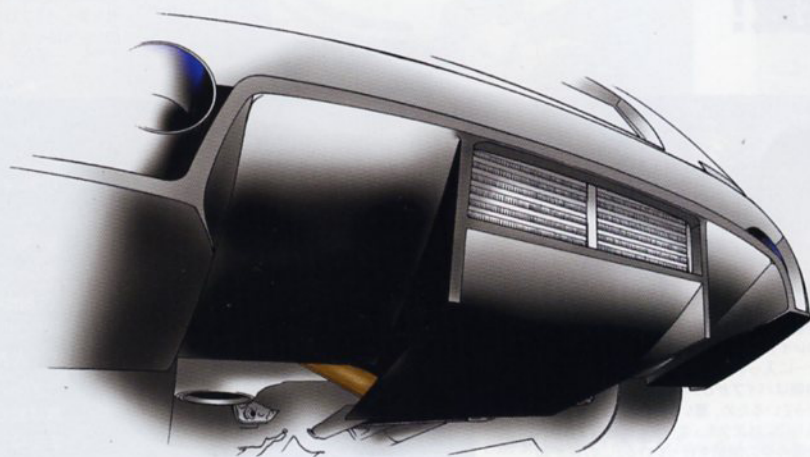
その席で小里さんは言ったそうだ。「いい音のするマフラーを作りたい」と。もちろん、ガレージ・トータルが手掛けてきた排気系パーツだって、音を無視してきたという訳じゃない。しかし、排気系パーツといえば、何よりパワーアップなど性能や効率が重視されるもの。ことさら、ガレージ・トータルのアイテムを選ぶような人たちは、パーツメーカーの量産品では出せない性能を欲する、より性能指向の強い人たちである。小里さんもそんなニーズに応えるため、ひたすら性能を追求してきた。しかし、音のよさからサクラムマフラーが人気を集めている現状に、あらためて音の重要性に注目。音にこだわったマフラーを作りたいと考えていたようだ。

山田がマフラーに求める条件は、空力へのこだわりだ。リアバンパーの傾斜角に合わせてサイレンサー形状を設定したというバージョンニスの空力性能をスポイルしないもの、という点を重視している。取材を通して、オーテックジャパンの空力へのこだわりを直接耳にしているだけに、それを無駄にしよう（ような）ことに強い抵抗感があるのだ。性能や音もちろん重要だが、バージョンニスの空力性能をさらに高めるため、左のイラストのようにバンパー内に出口を設け、床下をできる限りフラット化したいと目論んでいた。奇しくも、似たような発想を小里さんも持っていたこともあって、話は「じゃあ、作ってみようか」という方向に動き出した。

それぞれが重視するところに多少の差はあれ、これまでにない、いいマフラーが欲しい!! という点では意見が一致。目指すものは、床下の空力性能を高めることができ、いい音のするバージョンニスモ用マフラーだ。

プランでは触媒以降の部分すべて新設し、エキマニは既にリリースしているものを組み合わせる。Zマガジン号のみに装着してお終いでは、ただのワンオフマフラーで終わってしまうので、どうせなら、その音や機能性をその他のZオーナーも味わえるようなものに仕上げたい。それらをベースに、マフラー作りがスタートした。

本誌の製作進行も佳境に迫った11月中頃、小里さんから待望の連絡が入った。「とりあえず、プロトタイプが完成した」と。そこで取材スタッフを待っていたのが、次ページのマフラーだ。



今回完成は間に合わなかったトータルのバンパーイン・マフラーをイラストでイメージしてみた。ただしその実現には、例えばデフューラーの置き場所を考えることなど、様々な障害を予想することができる。それをひとつひとつ検証してゆくには、諦めない心と、焦らないで時間をかけることが必要だ。Z-MAGは誌面の締め切りに合わせて急ぐよりも、内容の充実を大切にすることにした。



トータル・オリジナルのHR用エキゾーストマニホールドも今回装着して、文字通りトータルな排気性能向上を目指す予定だったが、残念ながら間に合わなかった。ひとつひとつ手作りで作り上げるために、急ぐことはクオリティの低下を招く恐れがあったからだ。写真はVQ用でHRにも装着可能だが、HR専用のマニは長さ自体が微妙に異なるのである。